

平成30年9月13日

市立幼稚園統合計画 (第五幼稚園・第四幼稚園)

日野市教育委員会

1 幼稚園統合計画の背景と経過

昭和40年代の幼児人口の急増期、私立幼稚園の収容人数を超えた幼児を受け入れるために私立幼稚園の補完的役割として市立幼稚園は設置されてきた。幼児人口は昭和50年の16,781人をピークに減少に転じ、平成9年にはピーク時の半数程度の8,672人となり、市立、私立幼稚園の双方が定員割れとなっていた。

教育委員会はこの状況を改善するため、条例設置の日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会の答申（第1次答申：平成10年、第2次答申：平成11年）を基に平成12年に市立幼稚園の適正配置に関する基本方針を策定し、平成14年に第五、第六幼稚園を統合、平成17年に第一、第七幼稚園の統合を行った。

近年、共働き世帯の増加や家庭環境の多様化により子供を長時間預けられる保育園等を希望する保護者が増加し、待機児童の解消が社会的な課題となっている。日野市においても、同様の課題が発生しており、保育園等の希望者の増加に伴って、市立幼稚園・私立幼稚園の定員割れの状況が拡大している。

このような状況の中で、前述の基本方針に定められた第三幼稚園と第四幼稚園の統合を平成29年4月に行ったが、市立幼稚園の欠員にさらなる増加傾向が見られるため、市立幼稚園の適正配置の検討が必要となってきた。

教育委員会は平成29年11月に日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会に市立幼稚園の適正配置について諮問し、平成30年3月にその答申を得た。この答申を尊重し、教育委員会は、「保護者の保育園志向の高まりと、効率的な行政運営の観点から、市立幼稚園の重要性を踏まえたとしても欠員の解消に向けた市立幼稚園の縮減はやむを得ないものとする。」「第五幼稚園がある日野第三中学校と三沢中学校の地域では他の地域と比べて子供人口が大きく減少しているが多くの幼稚園が設置されている。このような状況の結果として第五幼稚園の在籍者が減少し、欠員が多く発生しているものと考えられるため、第五幼稚園は統合し、閉園することが妥当である。」と統合に関する基本方針を策定した。この方針に基づく統合の基本的な事項を本計画に定めるものである。

なお、基本方針では「統合の受入園は、第五幼稚園入園者の約8割が第四幼稚園を第2希望としていることから、第四幼稚園を統合の受入園とする。」としているため、第五幼稚園と第四幼稚園の統合とするものである。

2 目的

第五幼稚園と第四幼稚園の統合は、市立・私立幼稚園の定員割れの状況の改善を目的とする。

3 実施内容

第五幼稚園と第四幼稚園の統合を実施する。(第五幼稚園は閉園)

4 統合実施日

平成33年(2021年)4月1日

5 第五幼稚園の園児募集

- ① 平成31年度(2019年度)入園児募集
(平成30年度(2018年度)11月実施)
4歳児・5歳児の募集を従来どおり行う。
- ② 平成32年度(2020年度)入園児募集
(平成31年度(2019年度)11月実施)
 - ・5歳児の園児募集は従来どおり行う。
 - ・4歳児の定員は30名(1学級)とする。
 - ・4歳児の園児募集は5歳児への進級時に第四幼稚園に転園することを条件とする。第四幼稚園以外の園を希望する場合は、希望園の定員の範囲内での受け入れとなり、定員を超える場合は第四幼稚園が転園先となる。
 - ・4歳児の応募が10名に満たない場合、第五幼稚園での受け入れは行わず、第2希望の園での申し込みとみなす。

6 第四幼稚園の園児募集

- ① 平成32年度(2020年度)入園児募集
(平成31年度(2019年度)11月実施)
 - ・5歳児の募集は従来どおり行う。
 - ・4歳児は原則30名(1学級)として募集する。ただし、統合の影響により第四幼稚園の4歳児の応募が30名を超えた時は、60名(2学級)まで受け入れる。
- ② 平成33年度(2021年度)入園児募集
(平成32年度(2020年度)11月実施)
 - ・5歳児の募集は、第五幼稚園からの転園者などを考慮し、平成33年度の5歳児在園児見込みが70名(2学級)に収まる範囲内の募集とする。ただし、5歳児在園児見込みが35名に収まる場合は35名(1学級)に収まる範囲内で

の募集とする。

- ・ 4歳児の募集は30名（1学級）とする。

※ 上記以外の募集は従来どおりとし、学級増は行わない。

7 計画の推進

統合を円滑に進めるため、園側との緊密な連携のもと、在園児の保護者・地域住民に丁寧な説明を行い、理解と協力を得ながら計画の推進を図っていくこととする。

なお、幼稚園跡地には、この地域に必要な子育て支援施設の設置に向けて所管する市長部局と連携し、取り組んでいく。